

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

# 三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

## ■コミュニティだより

VOL. 34 (年4回発行)

■発行日 平成16年9月15日  
■発行 三春まちづくり協会  
■編集 三春まちづくり協会広報部会  
三春町字大町178 (旧公民館内)  
TEL/FAX (62) 3988



■迷ったら、分別の考え方の図を見る。

いまさら...と思われるでしょうが、もう一度基本に戻って、ひとつひとつ確認してみることが大事です。

■家庭や職場に、ごみ箱が三種類揃ってますか？

意外だったのは、燃えるごみ、燃えないごみ、プラスチックごみが分けられずに混じって入っている袋がまだまだあるということです。基本中の基本ですが、ごみ箱を三つ用意しましょう。

七月二十九日、三春まちづくり協会の全体研修会として「ごみの勉強会」がまほろ小ホールで開催されました。最初に十月から変わる収集方法等について清掃センター職員から説明がありました。その内容については、八月十五日に配付された黄色のチラシと、広報九月号に掲載されていますのでご覧ください。

参加した人々から様々な質問が出されましたが、いまだに個別の分別についての質問が多く、分別に迷っている町民が多いことがうかがわれました。そこで、分別の考え方について清掃センターにききました。

## もう一度 基本に戻って分別を 環境部会「ごみの勉強会」から

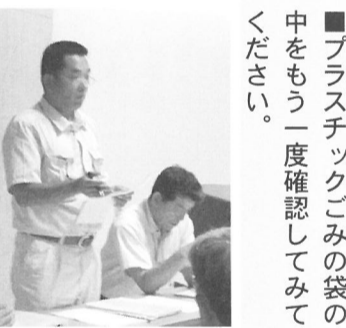
プラスチックごみの袋は、清掃センターで全部開けてさらに分別しています。この作業時に様々な問題が発生しているのです。

弁当の食べ残しや、使い残した調味料などが入った袋は、汚れたり腐敗したりして、清掃センターでの作業の大きな障害になっています。ごみを出す側のマナーとして、汚れをとって出すことが必要だと感じました。

それでも分別に迷ってしまった場合のために、考え方の参考になる図(下に掲載)を作成しましたので、活用してください。

燃えるごみ(割り箸、楊枝など)、燃えないごみ(陶器、スプーンなど)が入っている袋がかなりあります。プラスチックだけをに入れてください。

ソースやマヨネーズなどの容器に中味が残ったままのものがあります。収集車で圧縮した際に破裂して、他のプラスチックごみを汚してしまいますので、全部出し切ってください。また、マヨネーズはガラスの大好物で、ごみ置き場でガラスに袋を破られる原因のひとつになっています。



プラスチックごみの袋の中をもう一度確認してみてください。

■例外があります。

お弁当や納豆などについてくる醤油、ソースの小袋のようなものは、紙に包んで、燃えるごみとして出しかまいません。

燃えるごみ(割り箸、楊枝など)、燃えないごみ(陶器、スプーンなど)が入っている袋がかなりあります。プラスチックだけをに入れてください。

ソースやマヨネーズなどの容器に中味が残ったままのものがあります。収集車で圧縮した際に破裂して、他のプラスチックごみを汚してしまいますので、全部出し切ってください。また、マヨネーズはガラスの大好物で、ごみ置き場でガラスに袋を破られる原因のひとつになっています。

燃えるごみ(割り箸、楊枝など)、燃えないごみ(陶器、スプーンなど)が入っている袋がかなりあります。プラスチックだけをに入れてください。

ソースやマヨネーズなどの容器に中味が残ったままのものがあります。収集車で圧縮した際に破裂して、他のプラスチックごみを汚してしまいますので、全部出し切ってください。また、マヨネーズはガラスの大好物で、ごみ置き場でガラスに袋を破られる原因のひとつになっています。

■勉強会で出された質問

▽刃物やガラスなどそのままでは、袋が破けて危険なものは紙に包んで、マジックインク等で中身を書いて、燃えないごみへ。

▽ペットボトルはキャップをとって洗う。キャップは燃えないごみです。

▽スプレー缶は完全に使い切って、燃えないごみとして出します。穴はあけなくても大丈夫です。

▽ビデオテープ、カセットテープなどのプラスチックはリサイクルできないので燃えないごみです。

燃えるごみ(割り箸、楊枝など)、燃えないごみ(陶器、スプーンなど)が入っている袋がかなりあります。プラスチックだけをに入れてください。

ソースやマヨネーズなどの容器に中味が残ったままのものがあります。収集車で圧縮した際に破裂して、他のプラスチックごみを汚してしまいますので、全部出し切ってください。また、マヨネーズはガラスの大好物で、ごみ置き場でガラスに袋を破られる原因のひとつになっています。

■町(清掃センター)に対して要請すること

- ①分別方法の変更を町民にわかりやすく周知する。
- ②センターへの問い合わせの事例集を広報などで町民に知らせる。
- ③ごみ処理の流れと分別の意味が理解できるように「分別収集の手引き・チラシ」等を作成。
- ④具体的数値を含め、環境行政についての情報提供。

■各字に要請すること

- ①ごみ分別に関する各字毎の説明会、勉強会の実施。
- ②地域事情にあった問題解消の取り組み。

■環境部会の課題

- ①町、各字委員会と連携して継続的に問題改善に取り組む。
- ②ごみの減量化について、生活改善や再生利用など多角的な観点から勉強会を実施する。

燃えるごみ(割り箸、楊枝など)、燃えないごみ(陶器、スプーンなど)が入っている袋がかなりあります。プラスチックだけをに入れてください。

ソースやマヨネーズなどの容器に中味が残ったままのものがあります。収集車で圧縮した際に破裂して、他のプラスチックごみを汚してしまいますので、全部出し切ってください。また、マヨネーズはガラスの大好物で、ごみ置き場でガラスに袋を破られる原因のひとつになっています。

燃えるごみ(割り箸、楊枝など)、燃えないごみ(陶器、スプーンなど)が入っている袋がかなりあります。プラスチックだけをに入れてください。

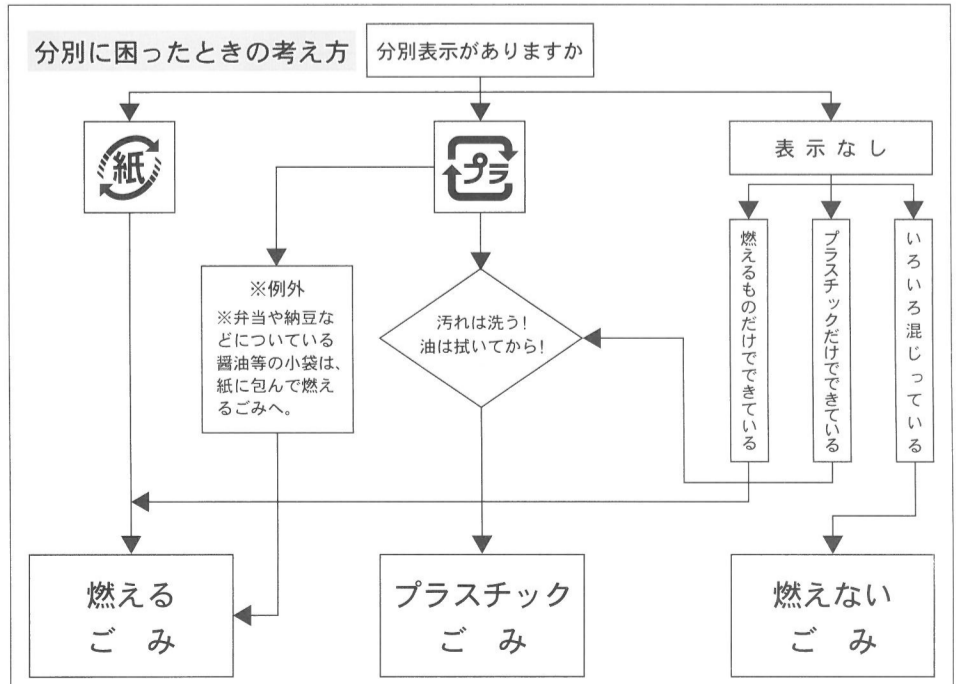
ソースやマヨネーズなどの容器に中味が残ったままのものがあります。収集車で圧縮した際に破裂して、他のプラスチックごみを汚してしまいますので、全部出し切ってください。また、マヨネーズはガラスの大好物で、ごみ置き場でガラスに袋を破られる原因のひとつになっています。

取材を終えて...

今から六年前「三春わが街第二十二号」で「ごみの分別を特集した。それ以来の取材となったが、分別の基準が大きく変わっていて、過去の知識が使いものにならないことに驚いた。私だけが知らなかったのか...」

町民の大部分は、ごみの分別に対しての意識・関心も高いし協力する気持ちも大きいと思うが、町からの要請・説明・情報提供は十分と言えらるだろうか？

例えば「広報みはる」に毎月一ページ「清掃センターだより」を掲載してはどうだろうか。町民の側も、正しい分別方法をマスターし、清掃センターの仕事に協力していく気持ちが大切だと感じた。(永井)



# 地域の話題

今回は、街中のさまざまな地域の話題をとり上げてみました。地域のパワーを活かしより住みやすい地域環境をつくるため、創意工夫しながらがんばっていることが分かります。今後も、多くの事例や取り組みを紹介していきますので、皆さんの地域活動の様子を三春まちづくり協会事務局までお寄せください。

## クリーンアップ 作戦実施

七月四日(日)、全体事業の一つであるクリーンアップ作戦が、県下一斉「河川愛護デー」に合わせ実施されました。

当日は、全町で二二五九名の参加により、桜川、八島川、御祭川や国道二八八号線側溝の清掃が行われ、夏本番に向けた環境整備の取り組みができました。



## 「八島台緑化センター」の奉仕活動

去る八月八日、すでに午前六時から二十五度を越え、日中は三十五度にも達した猛暑の日。三春町からの業務委託契約団体とはいえ、緑をこよなく愛し、持ち前



の奉仕精神と地域の環境美化に熱心な「八島台緑化センター」を取材しました。未永健二会長以下、女性を含む二十五名の会員。設立は平成十三年四月。委託業務名は、八島台街路樹等維持管理業務となっております。場所は、県道駅南第一、二号線及び八島台歩行者専用道路(八島坂)。

八日は、盆の帰省ラッシュを前に、駅裏から登る八島坂のサツキ、笹などの剪定と除草のために七つ道具を持参した会員が参集し、仕事に精を出していました。八月は草刈り作業を含め四回の出勤とのことでした。十五年度の事業報告書によれば、エンジユの立ち枯れの大樹の伐採や、それに替わるハナミズキの植付けなど、プロ級の大仕事をこ

なしています。また今年度の計画も見事なもので、街路樹の剪定、施肥、抜根、除草、植付けや土地改良など、仕事は尽きることはありません。季節に合わせた緻密な計画が提示されています。町当局と密接な連携を取りつつ、規律正しく、心根やさしい人々の団体であることを再認識しました。会員は区長、組長職を退いた人たちが多く、地域の情報通であり、結束の強い信頼のおける団体なのかもしれません。

## 「水ができました」お城山

四月十六日、若松屋でまちづくり協会の総会が行われました。



城跡付近



児童公園のトイレ

その中で中町区長・大内敏嗣さんから「桜の季節に友達を案内してお城山に登ったが、トイレや水飲み場の水道の水が出なくて困った。ぜひ水が出るようにして欲しい。」との要望があり、出席していた町長からは「数件の要望が入っているので、早急に対処します。」の答えがありました。

五月七日に町からまちづくり協会に「故障していますので修理にかかります。」と文書で報告があり、六月末からお城山にある水飲み場が三か所とトイレ二か所の水道の水が出るようになりました。

現在、水は、散歩をする人や遊びに来る人のどののどを潤したり、児童公園で遊ぶ子どもたちの砂で汚れた手を洗うこともできるようなっています。またトイレを使用するときの衛生面でもたいへん役に立っています。

お城山の水道水はこれから四季おりおり、お城山を訪れる人たちにおおいに利用されることでしょう。

## いつもきれいな桜川!

### 中町町内会清掃活動

人形館から武道館の前をとり、御免町あたりまで桜川に沿って歩くと、川の中や周辺がいつもきれいな感じがします。地区の人に聞くと、中町町内会では毎月桜川周辺の清掃活動をしているということなので取材をしました。

●清掃活動の取り組み  
八月四日(水)早朝六時前、桜川の清掃現場へ取材に出かけると、すでに数人の人たちが作業にとりかかっています。

●一石三鳥の取り組み  
この取り組みは、十数年前から始められています。歴史から人形館、蔵どおり、そして御免町、福聚寺は観光客がよく通るルートなので、気持ちよく三春を楽しんでもらうため、一部の組の有志ではじめた清掃活動が、桜川から周辺の側溝まで拡がり、現在のよう

に町内会の取り組みへと進展したのではないかと、地元の人が話していました。また、この取り組みのメリットとして「一つには、当然自分たちの住む地域がきれいになること。二つには、中町地区の桜川は防火用水として数カ所堰とめられており、夏になると悪臭の心配があったが、毎月の清掃作業のため消防団へ要請し堰を開け流水するのでそれが防止できること。

●中町町内会長・大内さんのお話では、毎年の町内会事業計画で、五月から九月までの第一水曜日に桜川及び側溝の清掃を実施することを決めていたとのこと。桜川に隣接する組ごとに担当区域を区分して、組長さんを中心に組の皆さんが清掃活動を行っています。

この日、清掃作業をしていた人数は、担当区域の隣の戸数により三人から七人位までマチマチで、作業の仕方も草を取る、ごみを拾う、竹箒で川底を掃く等、川の状態にあったやり方を組毎に取り入れて実施していました。

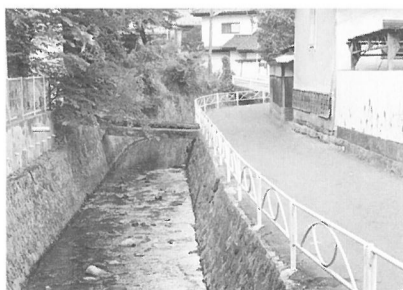
清掃で出た草やごみ類は、それぞれ別し指定の袋につめ、ごみの種別と責任者名を記入したラベルを貼って、指定の場所に集めて置きます。収集されたごみ袋は、役場の担当者が回収し



清掃に汗を流す皆さん

三つには、清掃活動で月に一度隣組の人たちが顔を合わせるので地域のコミュニケーションが図られること。また、隣組の軒数が少なく人手が足りない区域には、囲碁クラブの会員の皆さんが応援に駆けつけるなど地域の連帯が強くられるメリットもあることを受けています。

●地域活動のコツ  
参加状況を聞いてみると特に、出欠の管理はせず、組の人たちの都合に合わせて自主的な判断にまかせてい



きれいになった桜川

## 編集後記

私が区長になって、約半年になります。これまで行政にかかわる事などまるでなかったのですが、皆さまのお力添えを得て、こままにできることができました。三春まちづくり協会では広報部に所属することになりました。初めて経験することばかりで、若い世代の人たちと楽しく学ばせていただいております。経験不足ではありますが、皆さまとともに、三春に生まれ良かったと思えるまちづくりに取り組みしていきたいと思っております。(佐藤勝男)